

## 排卵誘発剤について

ご不明点がありましたら、遠慮なく医師や看護師にお尋ねください。

### 目的

排卵障害に対して、卵胞の発育を促進し、スムーズに排卵に向かう目的で使用します。超音波による卵胞チェックと併用することで、タイミングや人工授精の日程が決まりやすくなります。また、不妊原因が明らかでない場合でも、排卵誘発剤を併用した人工授精はタイミング法に比べて累積妊娠率が向上すると報告されていますので、排卵障害がなくとも提案しています。

### 薬剤の種類と代表的な副作用

- **クロミッド錠**：頭痛、まれに視神経炎（もやがかかったように見える）など
- **レトロゾール錠**：性器出血、まれに気分の落ち込みなど
- **FSH/hMG注射・hCG注射**：皮下出血、腫れなど

### 合併症

- **多胎妊娠**  
複数の卵胞が発育した場合、多胎妊娠（ふたご・みつごなど）となる可能性があります。当院では3個以上の卵胞発育が確認された場合、その周期の治療を中止とさせていただきます。
- **卵巣過剰刺激症候群（OHSS）**  
頻度は低いですが、多数の卵胞が発育し、卵巣が大きく腫れて、腹水や胸水が貯留するOHSSを引き起こすことがあります。まれに重症化や血栓症が疑われる場合には、入院治療が必要となることがあります。
- **子宮内膜の菲薄化**  
薬剤の作用により子宮内膜が薄くなり、妊娠率が低下する可能性があります。その際には薬剤の変更や休薬などで対応します。

### その他

- \* 患者さまのご負担やリスクを最小限にするために、作用の穏やかな薬剤から開始します。
- \* 多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）などにより排卵障害が重度の場合、スムーズな卵胞発育が得られないことがあります。その際は、一旦消退出血（生理とさせていただいて構いません）を起こしてから、薬剤を増量あるいは変更し、次周期に治療を再開します。
- \* また、薬剤アレルギーなど、個別の副作用や症状が生じる場合があります。
- \* タイミング法や人工授精については別途ご案内しているホームページ等をご覧ください。